

No.	⑩	分類	3-(2)-イ	資料名	今の私にできること	学年	2年	領域	特別活動（学校活動）
-----	---	----	---------	-----	-----------	----	----	----	------------

1 ねらい

- ボランティア活動の趣旨を理解するとともに、事例を通して支えあって生きることの意味について考える。

2 趣旨

- 被災地でのボランティア活動などにあたっては、被災者の願いを知ることが大切であり、そのためには、体験や想像力が必要である。特に被災者の心に寄り添うことが重要である。
- ボランティア活動は時間の経過とともに変化する被災地からのニーズを捉えながら継続していくことが必要であることを認識させる。

3 配慮事項

- 被災地から避難してきている生徒が学級に在籍している場合は、事前にその生徒の家庭状況や心の状態をしっかりと把握しておく必要がある。
- 阪神・淡路大震災や東日本大震災におけるボランティアの実践記録や心のケアに関する資料等を活用して、事前・事後指導を行う。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 資料を読む。 2 先生の言葉の意味について、話し合う。 先生は、クラスみんなに何を伝えたかったのでしょうか。 - 被災者の願いを想像することが、活動の第一歩であり、そのうえでかける言葉を考えよう。 - 阪神・淡路大震災の時の被災者の様子を知らることが、東北の方々に対する効果的なボランティア活動につながる。	阪神・淡路大震災の教訓が、東日本大震災の復興支援に活かされること、ボランティア活動に携わるとき、受ける人の気持ちや状況を考えることが大切であることに気づかせる。
3 被災者の言葉のもつ意味について、話し合う。 被災者の「ありがとう」には、どんな気持ちが込められていたのでしょうか。 - 自分の思いを受け止めてくれたことへの感謝の気持ち。 - 一緒に泣いてくれたことに対するうれしさ。	共感の姿勢で話をきちんと受け止めることが、被災者の心のケアにとって重要であること、そうした心を支える活動もボランティアの大切な活動のひとつであることに気づかせる。
4 「ユリ」の提案について、話し合う。 ○「ユリ」はどんな言葉にしたいと思ったのか考える。 「無理せず、少しずつ。」 「共に、生きましょう。」 「一人じゃない、みんながいるよ。」 「ずっと忘れないでいるよ。」 ○復興のために自分にできるボランティアを考える。 - 現地の様子について関心を持ち続け、状況を知り多くの人に伝える。 - 必要な物資の支援を続ける。	- なぜその言葉を選んだのか、理由も併せて発表させる。 - がんばれない時はがんばらなくてもいいこと、泣きたい時は泣けばいいこと等、被災した人の心に寄り添うことについて気づかせる。 - ボランティア活動には様々な方法があり、今の自分にできることを考え実行し、継続的に行っていくことの重要性を認識させる。

5 参考

- 第33回全国中学生人権作文コンテスト法務大臣政務官賞受賞作品の「『思い』を受け止め『心』をつなぐ」（西宮市立大社中学校3年 投石 萌さん）を参考とすることができる。

<http://www.moj.go.jp/content/000116361.pdf>

災害ボランティア活動者数の推移

阪神・淡路大震災（兵庫県）			東日本大震災（岩手県、宮城県、福島県）		
期間（H7～8）	延べ活動者数（人）	一日平均（人）	期間（H23～24）	延べ活動者数（人）	一日平均（人）
1/17～2/17	620,000	20,000	3/11～4/11	112,700	3,500
2/18～3/16	380,000	14,000	4/12～5/11	181,000	6,000
3/17～4/18	170,000	5,200	5/12～6/11	142,500	4,600
4/19～5/21	36,000	1,100	6/12～7/11	129,600	4,300
5/22～6/20	21,000	700	7/12～8/11	118,900	3,800
6/21～7/23	26,000	800	8/12～9/11	79,200	2,600
7/24～8/20	22,000	800	9/12～10/11	57,500	1,900
8/21～9/20	28,000	900	10/12～11/11	47,100	1,500
9/21～10/20	18,000	600	11/12～12/11	32,800	1,100
10/21～11/20	19,000	600	12/12～1/11	12,400	400
11/21～12/20	15,000	500	1/12～2/11	14,800	500
12/21～1/20	22,000	700	2/12～3/11	22,000	800
合 計	1,377,000		合 計	950,600	

※延べ活動者数は、阪神・淡路大震災が1,000単位の概数、東日本大震災が100単位の概数で表しているため、合計値が一致しない場合がある。

※一日平均は、延べ活動者数／日数で計算し、100単位の概数で表しています。

※東日本大震災におけるボランティア活動者数は、社会福祉協議会災害ボランティアセンターで受け付けた人数を表しています。

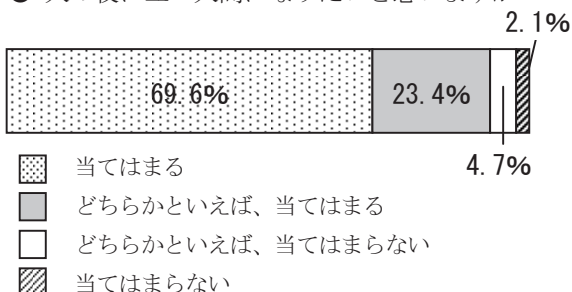
※参考 「阪神・淡路大震災一般ボランティア活動者数推計」（兵庫県）

「社会福祉協議会災害ボランティアセンターで受け付けたボランティア活動者数の推移」（全国社会福祉協議会）

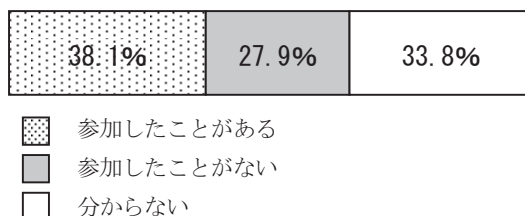
阪神・淡路大震災では、地震発生直後からの1年間に、延べ137万人以上が被災地で活動し、1995（平成7）年は「ボランティア元年」と言われています。

平成25年度全国学力・学習状況調査（質問紙調査：兵庫県公立中学校）

● 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



● 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか



2015（平成27）年1月17日、阪神・淡路大震災から20年を迎えます。兵庫県では、2014（平成26）年4月から1年間、『伝える』『備える』『活かす』をコンセプトに阪神・淡路大震災20周年事業を行います。

震災から20年を迎える今、原点に立ち返り、ボランティア活動等の体験を通して、生命の尊厳を基盤に、「共生」の心を育成することが大切です。